「最後の文化祭締めくくる劇」

　僕たち３年生にとって中学校最後の文化祭は、臨む気持ちも去年や一昨年とは違っていました。僕たちは、プログラムの最後を締めくくるハンセン病をテーマした劇をしました。

　もう１２年も続いているまさに伝統の劇です。そして、今年は劇に「大勢の意見が、正しい意見ではない」という意味も込めました。皆がおのおのの役割を果たし、とても訴える力のある劇を発表できました。

　上演後、劇を見られた菊池恵楓園の方の意見を聞きました。その中で、「多数決の多数意見が真の意見と思ってしまうが、議論などが十分に行われてない多数決は民主主義ではない」と言われました。これは、さまざまな差別などの原理を表していると思います。

　もし、多数決が間違いを犯していても、流されず、たとえ少数でも間違いを指摘できる強い人間でありたいと思います。心も成長できた素晴らしい文化祭だったと思います。